# 「グローバル・パートナーシップ」を育成する NIE 学習教材の日米協働開発 - 「ヒロシマの校庭から届いた絵~本川小学校の物語~」-

小原友行(福山大学)

#### 1 はじめに~本研究の目的と方法~

本研究の目的は、急速に進展するグローバル時代だからこそ求められる資質・能力の一つと考えられる「グローバル・パートナーシップ」を育成する NIE 学習のために有効と考えられる「多文化間イシュー教材」を、日米間での「協働的アクションリサーチ」1)という手法を通して開発することである。

開発にあたっては、下記のような方法・手順で研究を行っていった。

- ① 「グローバル・パートナーシップ」を育成するアクティブ・ラーニング型の NIE 学習に関する理論仮説を、日米協働のチームで構築する。
- ② 構築した理論仮説に基づいて、NIE 学習のための教材として有効と考えられる「多文化間イシュー教材」の日本語版・英語版を、日米協働のチームで開発する。
- ③ 開発した「多文化間イシュー教材」を用いて、日米両国の小・中学校において筆者 自身が研究授業を試行する。
- ④ 試行した研究授業の結果の分析・評価を、日米協働チームで行う。
- ⑤ 研究授業の分析・評価に基づいて、開発した教材および授業計画の修正・改善を図るとともに、NIE 学習の理論仮説の有効性を吟味する。

# 2 NIE 学習のための教材開発に関する3つの視点(仮説)

#### (1) 目標としての「グローバル・パートナーシップ」

本研究における「グローバル・パートナーシップ」とは、平和な国際社会を実現しようとする意欲や意識をベースに、その実現に向かって次の7つの「C」を行うことができる 資質・能力と規定しておきたい。

- ① キュリオシティー (好奇心, Curiosity)
- ② コミュニケーション(対話, Communication)
- ③ コラボレーション (協働, Collaboration)
- ④ クリティカルシンキング (批判的思考, Critical Thinking)
- ⑤ クリエーション (創造, Creation)
- ⑥ チャレンジ (挑戦, Challenge)
- ⑦ チョイス (選択, Choice)

これらの資質・能力は、急速に社会のグローバル化が進展していく中で、文化間での格差が広がり、摩擦や対立が深刻になっている今という時代において、憎しみや悲しみの連鎖を断ち切り、それを乗り越える勇気や寛容性を持つためにも必要不可欠なものである。また、「一方が正義で他方が悪」「どちらかが勝者でどちらかが敗者」とするのではなく、多様な正義を認めどちらもが勝者となれるような世界の実現が求められている今日、10~20年後という近未来の学校教育を考えると、このような資質・能力を備えた児童・生徒の育成は、最重要な今日的課題の一つであると考えることができる。

また、これら7つの「C」は、「OECD教育2030」2)で以下の3つに分類されている「私たちの社会を変革し、私たちの未来を作り上げていくためのコンピテンシー」を支えるものと、とらえることもできよう。

- ① 新たな価値を創造する力 (Creating new value)
- ② 対立やジレンマを克服する力 (Reconciling tensions and dilemmas)
- ③ 責任ある行動をとる力 (Taking responsibility)

#### (2)「多文化間イシュー」を取り上げた3種類の NIE 教材の「ストーリー」(物語)

次に、「グローバル・パートナーシップ」の育成を目指す NIE 学習に有効と考えられる 教材としては、次の3つの「多文化間イシュー教材」を考えることができよう。3)

- ① 「相互交流型教材」…文化間での相互交流の活動を通してウイン・ウインの関係を構築する(した)人間の問題解決の「ストーリー」(例えば,「日米の懸け橋となったジョン万次郎やマクドナルド」「サダコとオバマ大統領の折り鶴」など)
- ② 「希望創造型教材」…新たな価値の発見や再構築によって未来への希望を生み出そうとしている(した)人間の問題解決の「ストーリー」(例えば、人類共通の課題である平和・多文化共生」「地域の新たな魅力・価値を創造する里山・里海の再生」「未来創造に向かう共助型防災・減災・応災プロジェクト」など)
- ③ 「対立・葛藤型教材」…文化間での対立やジレンマを克服しようとする(した)人間の問題解決の「ストーリー」(例えば、「論争問題:移民や難民の受け入れ」「戦争と平和の課題~パールハーバーとヒロシマ~」など)

本研究は、③の「対立・葛藤型教材」を取り上げて NIE 学習の授業開発を試みた成果の報告である。具体的には、戦後間もない時期にかつて敵国であった米国から届いた文房具や運動具のお礼として、爆心地に最も近い本川小学校の児童が絵や習字をワシントン DCのオール・ソウルズ・ユニテリアン教会や仲介をしてくれたハワード・ベル博士に贈り、それらが永く保存され、広島に里戻りしたという日米交流の物語を教材として取り上げ、本川小学校の6年生で研究授業を実施し、その結果を批判的に分析・吟味することを通して修正・改善を図った授業プランである。

研究授業の実施は、日本では広島市立本川小学校6年生3クラス(2020年10月5日実施)で、米国ではコロナ禍の影響で渡米できず、未実施である。(ノースカロライナ州グリーンビル市の小学校での実施を予定している。)4)

### (3) NIE 活動を取り入れた「アクティブ・ラーニング」

授業の主要な学習活動としては、学習者が「新聞記者(ジャーナリスト)」として時空を超えて、およそ 70 年前の日本・米国にタイムマシンで移動して、彼らを取材し、それを新聞記事として発信するという想定で、NIE 学習の基本である以下の3つの活動を取り入れた。

- ① メディアから必要な情報を取り出す。(情報の受信)
- ② 情報の背景を分析・解釈する。(情報の読解)
- ③ メッセージとしての情報をクリエイティブに生み出す。(情報の発信)

具体的には、①の「情報の受信」では、物語として開発された新聞資料(「本川子ども新聞」創刊号、「本川子ども新聞」第2号)や自作のスライドから、歴史新聞記者による取材の視点から交流物語の情報を児童自身が取り出す活動を行う。②の「情報の読解」では、二つの物語に共通する「キーワード」(例えば、「被爆からの復興」「平和への願い」「希望の未来」など)の発見とその背景の熟考(「なぜ、どうして」という問いに基づいて、人物(個人・集団・組織体)の行為の背後にある意図・目的・動機やその意味・意義を視点としたストーリーの解釈を行う。そして③の「情報の発信」では、分析・解釈したメッセージを伝える、題字、見出し、イラスト、意見や記事内容を考え、それを「はがき新聞」に

表現する活動を行う。

# 3 授業プランー「ヒロシマの校庭から届いた絵~本川小学校の物語~」-

#### (1) 単元の目標

- ① 知識・技能
  - ・自作の新聞資料やスライドから,「ヒロシマの校庭から届いた絵~本川小学校の物語 ~」に関する知識を抽出することができる。
  - ・抽出した知識をまとめ、発表することができる。
- ② 思考力・判断力・表現力
  - ・被爆後間もない時期にヒロシマの校庭から届いた本川小学校の児童たちの習字や絵を、米国ワシントン DC のオール・ソウルズ・ユニテリアン教会が永く保存し続けていたのはなぜか、その目的や理由を解釈し、表現することができる。
  - ・ヒロシマの校庭から届いた本川小学校の児童たちの習字や絵を, ハワード・ベル博士が永く保存し続けていたのはなぜか, またそれが遺族によって米国ハワイ州ホノルルにあるハワイ日本文化センター(日系移民博物館)に寄贈されたのはなぜか, その思いや理由を考え,表現することができる。
  - ・ヒロシマの校庭から届いた本川小学校の二つの物語に共通するキーワードは何かを 考え、表現することができる。
- ③ 学びに向かう力・人間性
  - ・「はがき新聞」の作成を通して、「ヒロシマの校庭から届いた絵」の背後にある物語 への興味・関心や学習意欲を持ち続けることができる。
  - ・「ヒロシマの校庭から届いた絵」に関わる人々に備わっていた「グローバル・マインド」「ピース・マインド」という人間性や、今日まで続く日米間の平和交流に興味・ 関心をもつことができる。

#### (2) 授業の展開計画 (1時間+家庭学習またはもう1時間)

	= -	之一。 上一、 1. 大手
展開過程	テーマ	主要な問いと活動
導 入	教材との出会い	
		○「グローバルマインド」「ピースマインド」とは
		どのようなものだろう,「ヒロシマの校庭から届
		いた絵」の本川小学校の物語を通して考えてみよ
		う。
		○みなさんは歴史新聞記者です。およそ 70 年前の
		広島やワシントン DC にタイムマシンで移動し
		て,「ヒロシマの校庭から届いた絵」に関係する
		人々を取材するとしたら,どんなことを聞いてみ
		たいですか。
		○この授業では、最後に取材して考えたことを「は
		がき新聞」に表現してもらいます。
展開 1	オール・ソウルズ・	
	ユニテリアン教会	○「本川子ども新聞」創刊号とスライド資料から,
	(ワシントン DC)	およそ 70 年前にワシントン DC の教会から贈ら
	の絵や習字の物語	れてきた文房具や運動具のお礼として本川小学

		校の児童から習字や絵が贈られ、現在まで大切に保存され続けているという奇跡の物語を知る。 ②2010年に教会に保存されていた習字や絵が修復され、本川小学校に里帰りし、そのことがドキュメント映画「ヒロシマの校庭から届いた絵」となったことを知る。 ③被爆後間もない時期にヒロシマの校庭から届いた本川小学校の児童たちの習字や絵を、米国ワシントンDCのオール・ソウルズ・ユニテリアン教会が永く保存し続けていたのはなぜか、考えてみよう。 ○歴史新聞記者として、当時のオール・ソウルズ・ユニテリアン教会の関係者や当時の本川小学校の児童を取材するとしたら、どんなことを聞いてみたいか、それはなぜか、メモをしておこう。
展開 2	ハワイ日本文化センター(ホノルル)の習字や絵の物語	○「本川子ども新聞」第2号とスライド資料から,本川小学校の児童からハワード・ベル先生に贈られた習字や絵が,遺族によってホノルルのハワイ日本文化センター(日系移民博物館)に寄贈され,保存されていると日本語は「広島弁」といわれるくらいで話される日本語は「移民県広島」といわれると言われて広島県出身者が多く,当時は「移民県広島」と言われているとを知る。 ◎ ヒロシマの校庭から届いた本川小学校の児童たちの習字や絵を、ハワード・ベル博士が永によって、カワード・ベルはなぜか、またそれが遺族に大といて、またのはなぜか、またのはなぜか、またのはなぜか、またのはなばか、大きしていワード・ベル博士や彼の遺族、そして当時の本川小学校の児童を取材するとした。どんなことを聞いてみたいか、それはなぜか、メモをしておこう。
展開 3	二つの物語に共通する「キーワード」	<ul> <li>○「ヒロシマの校庭から届いた絵」に関する本川小学校の二つの物語に共通するキーワードは何だろうか。できるだけ多く挙げてみよう。</li> <li>・「被爆からの復興」</li> <li>・「平和への願い」</li> <li>・「希望の未来」など</li> <li>○戦前は敵対していた日本と米国が、戦後はパートナーとして平和と復興に協力していくことがで</li> </ul>

		きたのはどうしてか, 共通するキーワードが生まれる歴史的背景と要因を, 話し合ってみよう。
終結	「ヒロシマの検索を にロシマのを」の がの物でを 関する「はないがい。 関」の作成と でのでで でのがいる。 でのででで でのででで でのでででする。 ではいる。 では、 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではい。 ではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	<ul> <li>○歴史新聞記者として、「ヒロシマの校庭から届いた絵」に関する「はがき新聞」に挑戦しよう。</li> <li>・配布のワークシートに、題字、見出し、イラスト、記事、意見・考えなどを考え、書き込もう。</li> <li>・「平和を願った二人の少女の物語」をテーマとした「はがき新聞」例も参考にしてください。</li> <li>○作成した「はがき新聞」を発表し、クラスで交流しよう。</li> </ul>

#### 4 おわりに~本研究の成果と課題~

本研究の成果としては、次の4点を指摘することができる。第1は、小学校6年の児童に対して研究授業を実施し、「多文化間イシュー教材」による NIE 学習の可能性に対する手ごたえを得ることができたことである。第2は、ストーリー(物語)性のある歴史新聞による紹介 5)、歴史新聞記者としての個人・グループでの背景の読解(分析・解釈)、個人での「はがき新聞」の作成 6)という3段階の学習過程と学習活動は、本川小学校の児童にとって有効であったことである。第3は、「はがき新聞」づくりという学習活動は、30分程度の時間で作成できるということもあり、興味・関心をもって意欲的に取り組んでくれたことである。そして第4は、作成された「はがき新聞」の内容分析から解釈すれば、見出し・イラストの表現や意見・考えの内容を見る範囲内ではあるが、「ヒロシマの校庭から届いた絵~本川小学校の物語~」のストーリーに込めた「グローバル・パートナーシップ」の重要性に関するメッセージは、児童にも十分に受けとめられたと判断できたことである。

本研究の課題としては、次の2点を指摘することができる。第1は、コロナ禍の影響で、渡米して米国の児童に対して研究授業を行えなかったことである。第2の課題は、戦前・戦後の世界の歴史的状況に関する認識の少ない児童にとっては、やや難解な授業となったことである。本川小学校の歴史を同校の児童が学習するという点では熱心に取り組んでもらえたが、他の学校において実践する場合は、更なる工夫が求められよう。7)これらについては、今後の課題としたい。

#### 【註】

- 1) 本研究においては、日米間での「協働的アクションリサーチ」を、文化や考え方の異なる日米の教師・研究者が、これからの時代の求められる共通の教育目標を実現するための、あるいは児童・生徒の実態の中に顕在化してきている教育課題を克服するための授業仮説を設定し、それに基づいて研究授業を試行し、結果の批判的・反省的な吟味を通して仮説の修正・改善を協働的に行っていこうとする教育実践研究ととらえている。
- 2)「OECD教育2030」については、次のページを参照。
  - OECD, 'THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS EDUCATION 2030',

(<a href="http://www.oecd.org/education/2030/E2030%20Position%20Paper%20(05.04.2018).p">http://www.oecd.org/education/2030/E2030%20Position%20Paper%20(05.04.2018).p</a> df,閲覧日: 2020/01/27)

・文部科学省初等中等教育局教育課程課「OECD Education 2030 プロジェクトについて」

(https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper Japanese.pdf#search=%27OECD%E6%95%99%E8%82%B2%EF%BC%92%EF%BC%90%EF%BC%93%EF%BC%90%27,閲覧日:2020/01/27)

- 3) 「多文化間イシュー教材」の開発については、次のような計画で研究を進めている。
  - ・「相互交流型教材」…2018年度に開発を行い、日本教材学会第 10回研究発表大会(2018年 10月 21日、福山大学)で、「グローバル・パートナーシップ」を育成する多文化間交流教材の日米協働開発~ジョン万次郎とラナルド・マクドナルドの日米交流物語~」として発表。拙稿「グローバル・パートナーシップ」を育成する多文化間イシュー教材の日米協働開発~「幕末の日米交流物語-万次郎とマクドナルド-~」福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第6号、2020。
  - ・「希望創造型教材」…2019 年度に開発を行い、全国社会科教育学会第 68 回全国研究 大会(2019年11月10日、島根大学)で、「平和を願った二人の少女の物語〜禎子と ヒロ子〜」として発表。福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第7号、2021 に投稿予定。
  - ・「対立・葛藤型教材」…2020年度に、「ヒロシマの校庭から届いた絵~本川小学校の物語~」として開発中。
- 4) 実際の研究授業では、広島市立本川小学校の場合は、1単位時間(45分授業)で導入・展開と終結の課題提示までを A~C クラス合同の授業として行い、「はがき新聞づくり」の作業とその交流会については各クラスに分かれて1単位時間(45分授業)で行った。
- 5) 授業の中心的資料として用意した歴史新聞は下記の通りである。また、その縮小版(実際は A4 版両面印刷を各児童に配布) を別紙に載せた。
  - ・「本川子ども新聞」創刊号…別紙1
  - ・「本川子ども新聞」第2号…別紙2
- 6) 当日の授業の様子については、別紙3のように、何枚かの授業風景の写真で紹介した。
- 7) 本川小学校6年生の児童が実際に作成した「はがき新聞」の実例を別紙4に紹介した。

#### 【本教材開発のための参考文献】

- 1) 重藤静美マナーレ『48 色の夢のクレヨン~ヒロシマからワシントン DC に届いた絵~ 日米平和の架け橋』ニシキプリント,2012 年 8 月 1 日
- 2) 重藤静美マナーレ『夢のクレヨン希望にのって~ワシントン DC に届いたヒロシマの子 供の心~』文芸出版, 2019 年 9 月 2 日
- 3) SHIZUMI SHIGETO MANALE & RICHARD MARSHALL, 'RUNNING WITH COSMOSFLOWERS; The CHILDREN of HIROSHIMA', PELICAN PUBLISING COMPANY, Gretna, 2014.
- 4) SHIZUMI SHIGETO MANALE & RICHARD MARSHALL, 'RUNNING WITH COSMOSFLOWERS; The CHILDREN of HIROSHIMA', PELICAN PUBLISING, New Orleans, 2020.
- 5) ドキュンタリー映画「ヒロシマの校庭から届いた絵」(PICTURES FROM A HIROSHIMA SCHOOL YARD), 2013。
- 6) Shizumi Peace Project, Animated Children's Picture Book "48 Colors of Dream;

Children Bloom in the Ruins of Hiroshima", 2016.6.

- 7) 中川利國「ハワード・ベルと広島の児童文化~占領軍と児童文化復興に広島の未来を託した人々~」『広島市公文書館紀要』インターネット臨時号,平成27年12月。
- 8) 森本和子「ハワード・ベル博士と広島」『すずのひびき』第5号, ぎんのすず研究会, 2009。
- 9) 広島市こども図書館『ベル・コレクション解題目録』平成 28 (2016) 年。
- 10) All Souls Church, Unitarian, The Ministers' Journey Toward Social Justice 1821-Present, 2020.
- 11) All Souls Church, Unitarian, "HIROSHIMA CHILDREN'S DRAWINGS ROADSHOW; Docent Talking Points".
- 12) Courtesy of the Japanese Cultural Center of Hawai'i, Honkawa Elementary School Archival Collection, Book-1 "HONKAWA SCHOOL" (Date unknown). (ハワイ日本文化センター提供「本川小学校歴史資料コレクション」広島市公文書館)
- 13) Courtesy of the Japanese Cultural Center of Hawai'i, Honkawa Elementary School Archival Collection, Book-2 "Student's Art work Hiroshima municipal HONKAWA elementary school" (Dated 5, May, 1952). (ハワイ日本文化センター提供「本川小学校歴史資料コレクション」児童作品集,広島市公文書館)"

#### 【謝辞】

本研究にあたっては、重藤静美マナーレさん制作のドキュメンタリー映画「ヒロシマの校庭から届いた絵」(PICTURES FROM A HIROSHIMA SCHOOL YARD), 2013 およびご本人への取材から多くの示唆を得た。また、オール・ソウルズ・ユニテリアン教会の教育関係ボランティアのチャールド・ウルドリッジさんやメルビン・ハーディさん、ハワイ日本文化センターの司書メアリー・キャンパニーさんには教材調査でお世話になった。さらに本川小学校の岡田由佳校長と6年生の担任の先生方には、研究授業の実施に関して協力をいただいた。これらの方々に、感謝申し上げたい。

#### 【追記】

本研究は、下記の科研費の助成を受けて行った研究成果の一部である。

- 1. 研究種目名:基盤研究(C)(一般)
- 2. 課題番号:18K02688
- 3. 研究題目:「グローバル・パートナーシップ」を育成する多文化間イシュー教材の日米 協働開発
- 4. 補助事業期間:平成30年度~令和2年度

# 別紙1 「本川子ども新聞」創刊号 (表面)



# (裏面)



別紙2 「本川子ども新聞」第2号 (表面)



# (裏面)



# 別紙3 当日の授業風景









別紙4 はがき新聞例(広島市立本川小学校6年生作成)











